

福島県果樹農業振興計画の品目別振興方針と生産目標

1 もも: 県育成オリジナル品種を核とした品種リレーとトップブランドの構築

振興方針

- 老木園の改植による産地の再生
- モモせん孔細菌病被害の軽減と雨除け施設導入による高付加価値化
- 品種構成改善による出荷時期拡大と安定生産
(早生: 中生: 晩生 11:63:26→20:50:30)
- 県育成オリジナル品種など優良品種への改植
- 光センサー選果システムの拡大と選果データを基にした生産
- 中生種、晩生種の高品質果実による輸出拡大

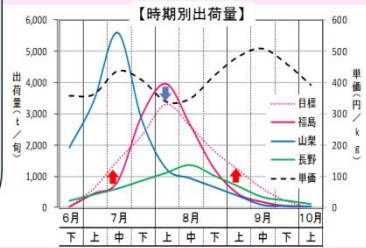
	H22	H27	H37
栽培面積	1,780ha	1,810ha	1,830ha
生産量	28,200t	26,600t	30,000t
産出額	101億円	114億円	144億円



【はつひめ】(早生種)
(7月上旬～中旬)
★県オリジナル品種
早生では大玉で高糖度



【あかつき】(中生種)
(7月下旬～8月中旬)
栽培面積で5割以上を占める、本県の代表品種



2 なし: 品種構成の再編とグローバルシェアの獲得

振興方針

- 優良品種への改植に合わせたジョイント栽培等、早期成園化技術の導入
- 品種構成改善による出荷時期拡大と安定生産
(早生: 中生: 晩生 38:55:7→35:45:20)
- 光センサー選果システムの拡大と選果データを基にした生産
- 高品質果実の輸出拡大

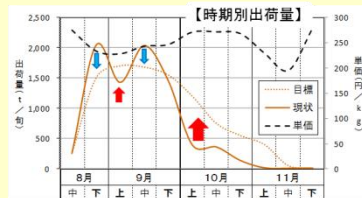
	H22	H27	H37
栽培面積	1,150ha	936ha	975ha
生産量	23,200t	20,500t	20,910t
産出額	74億円	55億円	56億円



【豊水】(中生種)
(9月上旬～10月上旬)
栽培面積で4割以上を占める、主力品種
大玉、豊産性で良食味



【あきづき】(中晩生種)
(9月中旬～10月上旬)
食味が優れ、全国で導入が進んでいる



3 りんご: 着色系ふじ等優良系統・品種への転換による産地銘柄の確立

振興方針

- 普通系「ふじ」から着色系「ふじ」への更新
- 優良中生種の導入
- 県オリジナル品種「べにこはく」、「会津のほっぺ」の導入

	H22	H27	H37
栽培面積	1,430ha	1,330ha	1,357ha
生産量	31,600t	26,300t	27,615t
産出額	70億円	50億円	53億円



【べにこはく】
(極晩生種)
(11月下旬～12月中旬)
★県オリジナル品種
高い貯蔵性と豊富な蜜入り

4 ぶどう: 個性ある品種の作出・導入と施設化による高収益生産の実現

振興方針

- 雨よけ等施設の導入による品質向上と安定生産
- 県オリジナル優良大粒系品種の開発
- 「あづましずく」や「シャインマスカット」等、優良大粒系品種の戦略的な導入

	H22	H27	H37
栽培面積	293ha	277ha	283ha
生産量	3,110t	2,700t	2,754t
産出額	16億円	18億円	18億円



【あづましずく】
(8月中旬～下旬)
★県オリジナル品種
種なしの大粒種

5 かき: 加工自粛の早期解除とオンリーワンブランドによる販売力の増強

振興方針

- 放射性セシウムの基準値超過ほ場の解消による加工自粛の早期解除(あんぽ柿)
- 乾燥機械・施設を活用した年内出荷率の向上(あんぽ柿)
- 品質向上と輸出拡大「会津身不知」

	H22	H27	H37
栽培面積	1,400ha	1,240ha	1,339ha
生産量	14,000t	8,460t	8,883t
産出額	14億円	13億円	14億円
あんぽ柿販売額	約22億円	約13億円	22億円



おうとう、すもも、うめ、西洋なし、キウイフルーツ、ブルーベリー、いちじく、くり、地域特産果樹(アンズ、ぎんなん、くるみ、さるなし、山ぶどう、ゆずなど)

振興方針

- 結実確保対策等の徹底による生産性向上
- 優良品種の導入
- 6次化の推進と観光との連携による販売促進
- 消費者に向けた各種情報発信

	H22	H27	H37
栽培面積	1,347ha	1,177ha	1,076ha
産出額	17億円	14億円	13億円



玉川村の
さるなしジュース